

➤ 15日 木曜

マルコ



14:43 そしてすぐ、イエスがまだ話しておられるうちに、十二人の一人のユダが現れた。祭司長たち、律法学者たち、長老たちから差し向けられ、剣や棒を手にした群衆も一緒であった。

14:44 イエスを裏切ろうとしていた者は、彼らと合図を決め、「私が口づけをするのが、その人だ。その人を捕まえて、しっかりと引いて行くのだ」と言っておいた。

14:45 ユダはやって来るとすぐ、イエスに近づき、「先生」と言って口づけした。

14:46 人々は、イエスに手をかけて捕らえた。

14:47 そのとき、そばに立っていた一人が、剣を抜いて大祭司のしもべに切りかかり、その耳を切り落とした。

14:48 イエスは彼らに向かって言われた。

「まるで強盗にでも向かうように、剣や棒を持ってわたしを捕らえに来たのですか。」

14:49 わたしは毎日、宮であなたがたと一緒にいて教えていたのに、あなたがたは、わたしを捕らえませんでした。しかし、こうなったのは聖書が成就するためです。」

14:50 皆は、イエスを見捨てて逃げてしまった。

14:51 ある青年が、からだに亜麻布を一枚まとっただけでイエスについて行ったところ、人々が彼を捕らえようとした。

14:52 すると、彼は亜麻布を脱ぎ捨てて、裸で逃げた。

ユダは親愛のしるしである口づけをもって、イエス様を裏切りました。神様に逆らい裏切っても、表面は信仰的に見せかけることもできるのです。ユダの行為がその親愛の行動によってなおさらイエス様

を悲しませるものとなったように、もしも親愛の行動で取り繕って裏切るなら、それはもっと悪いこととなります。常に真心で主に従いましょう。

はだかで逃げた青年のことを思っても、弟子たちの恐怖が大きかったとわかります。私たちは逃げ去った弟子たちを、信仰がないと言って片付けてしまうのではなく、自分に置き換えてみて、自分自身の信仰を吟味してみることが必要です。

おそらく誰もペテロのように「わたしはつまずきません。」と言える人はいないでしょう。主の愛をいただきながら、弱さを認めつつ、聖霊によって強められる必要があります。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

